

第8回 市民の声を聴く会 提言に対する回答

「スポーツ宣言都市千歳」の行政の取り組みについて

(要旨)

各種スポーツ団体合宿の招致活動の強化
・今まで以上に青葉公園のPR活動をしながら、招致活動の強化

市民の健康維持増進施策について
・北部隊裏山スキー場の開放、青葉公園少年野球場の活用

スポーツ関係窓口の一本化
・スポーツ関係窓口の一本化と青葉公園の歩くスキーコースの改善

(対応) 産業建設常任委員会で協議。

(対応先の協議結果)

各種スポーツ団体合宿の招致活動の強化

千歳市はH28年に本格的に合宿誘致に取り組み始めており、その年の誘致件数である56件がその後の目標値として設定されました。直近ではH30年69件、R1年74件、R2年67件と順調に誘致の実績を伸ばし、2020オリンピックの直前合宿地にも決定しました。

千歳市はこれまでゴルフ、サッカー、歩くスキー等の誘致について調査しましたが、いずれに関しても条件が合わないとの返答が返ってきているようです。千歳市議会スポーツ議員連盟でもラグビーの合宿誘致について視察調査をしましたが、本格的なトレーニング施設や芝の維持管理など大規模な予算による青葉公園の改修整備等の必要性があることが分かりました。

結果として千歳市の合宿実績の大半が長距離とマラソンであり、それは空港が近く、本格的なトレーニング施設が不要なこと、そして、体力を消耗させずにトレーニングできる涼しい気候であることが千歳市を選んで頂いている理由となっています。また、各チームは“青葉公園や周辺の豊かな自然環境”を活かしてトレーニングを行いながら、市内の宿泊施設において栄養管理された食事の提供を受けているのも重要なポイントになっています。

以上のことから、千歳市議会としましては、これまでも千歳市と協力して誘致活動を行ってきましたが、今後も“青葉公園や周辺の豊かな自然環境の良さ”を一層PRしつつ、“青葉公園や周辺の豊かな自然環境の良さ”を理由として利用いただいている長距離・マラソン種目団体をメインとした誘致活動に注目したいと考えます。

市民の健康維持増進施策について

「北部隊スキー場の市民開放について」

防衛施設については、千歳市が行政として交渉し、一部管理するという事は非常に困難でもあります。北千歳駐屯地第一特科団より、提言者のご提案に関して回答を頂きました。通称北部隊スキー場は北海道大演習場千歳地区の一部となっており、本来、警備上の観点から侵入防止柵を設置する必要があったので昨年、柵を設置したとのことです。また、団体であれば申請していただくと使用できますが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響により申請を受け付けていませんが、令和3年度については、近隣住民からも一般開放してほしいという声が上がっており、個人への開放も検討中ということです。

「青葉公園少年野球場の歩くスキー初心者コースとしての開放」

H28年度の議会において、同内容の質問があり、市としては『これまで初心者コースを青葉少年野球場に整備することについて要望はなかったが、必要性について検討してみる。』とのことでした。その後も市民の要望はそれ以降も特に聞いていないとのことですが、コース整備については現実的には可能との回答でありました。

スポーツ関係窓口の一本化

学校の体育館、公園、スポーツセンター等を利用したい場合等、施設の「利用受付」窓口は現状としては利用施設の管理者になっています。例えば歩くスキーコースの改善など、「苦情や要望の窓口」の一本化等については、様々な窓口が統合される「ワンストップ行政」などがありますが、これらは市民の利便性の向上に有効な手段の一つととらえますので、今後の課題として捉えてまいります。